



「冬休みの一番の思い出」

皆野小3年

黒澤 伯健さん



冬休みで一番思い出にのこっていることは、深谷市にある、しょうでんいんに行つて、じよ夜のかねをついたことです。

大みそかの夜、十一時半ごろにお寺について、かねつきのもうしこみをしました。ぼくは、四十七番で、みかんとおはしが

もらえました。そのあと列にならびました。寒かったので甘酒をもらい、のんで待つていました。

ぼくがじよ夜のかねをついたかった理由は、お母さんから「人間には、百八つのほんのうがあつて、かねをつくるとそれを消してくれるんだよ。」と教えてもらったからです。

いよいよぼくがかねをつく番になりました。本当にほんのうが消えるのかなと、心配になりました。かいだんのぼつて、かねの前までいきました。両手でつなをもつてぼうを引きました。そして強くかねをつきました。ゴォーン力強い音が、ひびきました。

「これで一年も終わりか〜。」かねをついたあとは、スッキリした気持ちでした。

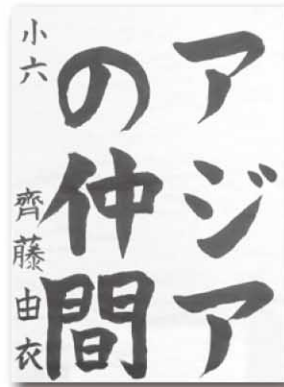
また来年も、つきにいきたいです。

(評) 貴重な体験が素直に表現できました。すてきな思い出ができましたね。



皆野小6年

齊藤 由衣さん



(評) 筆遣いもバランスも良く、力強い堂々とした字です。

国神小6年

野村 湧来さん



(評) 集中して丁寧書いていました。大きな夢がつかめそうですね。

「土用丑の日」

皆野中3年

橋本 悠作さん



(本人のコメント)
味わいのある色を、試行錯誤しながらつくって描くのが難しかったです。

皆野小1年

新井 姫愛さん



(評) うさぎと楽しく遊んでいる様子が伝わってきます。毛のフワフワしたところも上手にかけました。

